

以テ解説シ、ソレニ關スル余等ガ研究業績ニ就キ、結核ニハ結核獨特ノ免疫アリ、有害ナル過敏元ヲ含マザル眞ノ免疫元ハ、生體ニ無害ニシテ、ソレニヨリ生起セララルル免疫ハ抗菌性ニシテ抗毒性ヲ兼ネ、過敏性ヲ抑壓シ炎症ヲ鎮靜スル作用アリ、即チ豫防ト治療ノ兩面的作用ヲ兼ヌルモノデアル。凡ソ傳染性疾患ニ對抗スルニ二道アリ、病原ニ對抗スルモノハ以テ豫防ニ用フベク、病原ノ産出スル毒ニ對抗スルモノハ以

テ治療ニ用フベシ。若シソレコノ兩作用ヲ兼ヌルモノアラバ亦以テ上乘トスルニ足ル。余等ガ研究ニヨツテ得タルモノハ僥倖ニシテコノ理想ニ近キモノタル如ク、ソノ簡單ナル應用ニヨリ、個體ニ在テハ能ク結核ノ感染發病ヲ防遏シ又治療的作用アリ、即チ豫防ト治療ノ連衡ニヨリ、團體的若クハ地域的ニ結核ヲ驅逐シ、又長期ニ互リ能ク結核ナキ状態ヲ持續シウベキ可能性アルコトヲ實例ヲ擧ゲテ記述シタリ。

本文中記入以外ノ文獻

1) 大平, 結核. 大正 14, 3, 3. 2) 紙野, 第 4 回日本結核病學會總會. 大正 14. 3) 渡邊(朱一), 東京醫事新誌. 昭和 4; 2622. 4) Buschmann, H., Arch. Kinderhk., 1929, 88, 4. 5) Buschmann, H., Arch. Kinderhk., 1932, 96, 5. 6) Arima, R. und Taniguchi, S., Beitr. Tbk., 1930, 74,

489. 7) Ders, Beitr. Tbk., 1932, 81, 718. 8) Arima, R., Dtsch. med. Wschr. 1933, 30, 1166. 9) Arima, R., Aoyama, K. und Ohnawa, J., Beitr. Klin. Tbk, 1937, 90, 589. 10) Arima, R., Mycopathologia, 1940, 3, 105.

會報並ニ雜報

7月中新入會者

- 新井明之助 埼玉縣南埼玉郡篠津村白岡一五〇七
- 中川正幸 富山縣廳警察部衛生課
- 片山弘 佐世保市海軍工廠醫務部
- 齋藤弘 名古屋市帝國大學醫學部病理學教室
- 遠藤兼相 茨城縣那阿郡村松村 晴嵐莊内
- 高松英雄 奉天市滿洲醫科大學病理學教室
- 美正 千葉市龜岡町二七

- 林峻士 松坂市大字日野町二丁目四〇八ノ二
- 入江英雄 奉天市滿洲醫科大學放射線學教室
- 富田三郎 北京市國立北京大學內科教室
- 黒川利雄 仙臺市東北帝國大學醫學部黒川內科
- 河合益男 石川縣江沼郡篠原村傷痍軍人石川療養所
- 小林大佐 東京市牛込區戸山町一 陸軍軍醫學校
- 濱邊直二 金澤市鶴間町一三一

第19卷第7號 森茂論文正誤表

頁	行	誤	正
7	8	Thyminucleinsäure	Thymonucleinsäure
7	35	min	mit
7	37	vielfachen	vierfachen
504	右 7	mg 吸光度	mg/吸光度
505	右端 4	:	%
505	30	稀野度	稀釋度